レッスン 1: コースの紹介、イタリア映画とその主なロケーションの紹介。

- イタリア映画の歴史に触れ、チネチッタ、トリノの映画博物館、ヴェネツィア国際映画祭などの主要なロケーションやイベントについて紹介する。
- フェデリコ・フェリーニ監督の「La Dolce Vita（甘い生活)」（ローマ）のようなアイコニックなロケーションを持つ映画の例
- 都市と地域のマップと、イタリア映画とその主要ロケーションに関するクイズ

レッスン 2: ヴェネト州におけるイタリア映画のロケーション

- ヴェネト州をイタリア映画のロケーションとして紹介する
- ヴェネト州を舞台にした映画の例:ルキノ・ヴィスコンティ監督の「Senso（夏の嵐)」（ラ・フェニーチェ劇場、ヴァルマリーノのヴィラ・ゴディ、スカレーラスタジオ）と「Morte a Venezia（ヴェネツィアに死す)」、ロベルト・ロッセリーニ監督の「Paisà（パイサー)」（ロヴィーゴ)、シルヴィオ・ソルディーニ監督の「Pane e tulipani（ベニスで恋して)」（ヴェネツィア)、「Spartaco - Il gladiatore della Tracia（スパルタクス/ザ・グラディエーター）のようなペプラム映画（アリーナ・ディ・ヴェローナ)、カルロ・マッツァクラーティ監督の「La giusta distanza（まなざしの長さをはかって)」（ポー川三角州)、および「Vacanze di'inverno（冬の休暇)」と「Vacanze di Natale（クリスマスの休暇)」のドロミテ、「Finchè c'è prosecco c'è speranza（The last prosecco)」（プロセッコの丘)，「Vajont - La diga del disonore（プロジェクト V 史上最悪のダム災害)」（バイオントダム災害)。
- リード島とヴェネツィア国際映画祭、ビデオテカ・パジネッティ、ヴェネツィア・ビエンナーレ現代アートの歴史アーカイブ、カ・フォスカリショートフィルム映画祭

レッスン 3: ロンバルディア州におけるイタリア映画のロケーション

- ロンバルディア州がイタリア映画のロケーションとして紹介する
- ロンバルディア州を舞台にした映画の例: ヴィットリオ・デ・シーカ監督の「Miracolo a Milano（ミラノの奇蹟)」（ドゥオーモ広場)、ルキノ・ヴィスコンティ監督の「Rocco e i suoi fratelli（若者のすべて)」（ミラノとコモ湖)、エルマンノ・オルミ監督の「L'albero degli zoccoli（木靴の樹)」（ベルガモ)、ピエルパオロ・パゾリーニ監督の「Salò o le 120 giornate di Sodoma（ピエル・パオロ・パゾリーニ／ソドムの市)」（サロ、ブレシア)、マルコ・ベッロッキオ監督の「Sbatti il mostro in prima pagina（スクープ)」（ミラノ)、パヴィアを舞台にした「La monaca di Monza（モンツァの聖職者)」、「Il maestro di Vigevano（ヴィジェヴァノの先生)」、「Il cappotto（コート)」、「I promessi sposi（いなづけ)」（コモ湖）
- 映画のインタラクティブミュージアム（MIC)、ミラノ映画センター、ミラノ映画博

物館

レッスン 4: ピエモンテ州におけるイタリア映画のロケーション

- ピエモンテ州がイタリア映画のロケーションとして紹介する
- ピエモンテ州を舞台にした映画の例: ジョヴァンニ・パストローネ監督とガブリエーレ・ダンヌンツィオの「Cabiria（カビリア)」(1914 年、トリノ、ランツォの谷、アヴィリアーナの湖、ドーラ・リパリア川沿い、近くのアルプス)、「Maciste all'inferno（地獄のマチステ)」（1926 年、ヴァッレ・ストゥーラ、クーネオ), ジュゼッペ・デ・サンティス監督の「Riso Amaro（にがい米)」(ヴェルチェッリ)、ダリオ・アルジェント監督の「Profondo rosso（サスペリアＰＡＲＴ２)」(ヴィラ・スコット、トリノ)、マネッティ・ブロス監督の「Diabolik（ディアボリック)」(クールマイユール)、マルコ・ポンティ監督の「Santa Maradona（サンタ・マラドーナ)」(トリノ)、ジャンニ・アメーリオ監督の「Così ridevano（いつか来た道)」(トリノ)、ダヴィデ・フェラーリオ監督の「Dopo mezzanotte（トリノ、24 時からの恋人たち)」(モーレ・アントネッリアーナ、映画博物館)
- モーレ・アントネッリアナと映画博物館、トリノ映画祭、インフィニティ・フィルム・フェスティバル（後でアルバ国際映画祭になった)、チェルヴィーノ・チネマウンテン（山岳映画国際映画祭)、グラン・パラディーゾ映画祭（自然映画祭)、ストラーデ・デル・チネマ（生演奏の無声映画国際映画祭)

レッスン 5: エミリア・ロマーニャ州におけるイタリア映画のロケーション

- エミリアロマーニャ州は映画にとって重要な地域です。エミリアロマーニャ州がイタリア映画のロケーションとして紹介する
- この地方出身のいくつかの監督の名前：フェデリコ・フェリーニ、ミケランジェロ・アントニオーニ、ピエルパオロ・パゾリーニ、ベルナルド・ベルトルッチ、マルコ・ベッロッキオ、プピ・アヴァーティ、リガブエ。
- いくつかの映画：フェリーニの「I Vitelloni（青春群像)」、「La strada（道)」、「Amarcord（アマルコルド)」、「8 1/2」は正確にリミニを舞台としていますが、実際にはローマ、その周辺、チネチッタで撮影されています（→フィクションと現実のロケーションの比較)、「Don Camillo（陽気なドン・カミロ)」(ブレシェッロ、レッジョ・エミリア)、ベルトルッチの「Novecento（１９００年)」と「Prima della rivoluzione（革命前夜)」(パルマとレッジョ・エミリア)、ベッロッキオの「I pugni in tasca（ポケットの中の握り拳)」(ピアチェンツァ、ボッビオ)、ヴィスコンティの「Ossessione（郵便配達は二度ベルを鳴らす)」(コマッキオ、フェラーラ)、パゾリーニの「Edipo re（アポロンの地獄)」(ボローニャ)、デ・シーカの「Il giardino dei Finzi Contini（悲しみの青春)」(フェラーラ)、アントニオーニの「Il grido（さすらい)」(ポ川のデル

タ)、マリオ・ソルダーティの「La donna del fiume（河の女)」(コマッキオ)、リガブエの「Radiofreccia（ラジオフレッチャ)」(コレッジョ、レッジョ・エミリア)、ヴァレリオ・ズルリーニの「La ragazza con la valigia（鞄を持った女)」(パルマ)、シドニー・シビリア監督の「L'incredibile storia dell'Isola delle Rose（ローズ島共和国〜小さな島の大波乱〜)」(ボローニャ、リミニ)、オペラに関する多数の映画：「Rossini! Rossini!　(ロッシーニ！・ロッシーニ！)」、「Puccini　(プッチーニ)」、「Giuseppe Verdi（ジュゼッペ・ヴェルディヴェルディ)」、「Opera（オペラ座／血の喝采)」、「Paganini（パガニーニ)」

- ボローニャ映画博物館、Il cinema ritrovato（映画再発見映画祭)、DAMS（ボローニャ大学の芸術、音楽、演劇学部門)、フェリーニ博物館、ピエル・パオロ・パゾリーニ・アーカイブ、ブレシェッロのペッポーネとドン・カミロ博物館

レッスン 6：トスカーナ州におけるイタリア映画のロケーション

- トスカーナ州を舞台にした映画の例:：ロベルト・ベニーニ監督「La vita è bella（ライフ・イズ・ビューティフル)」(アレッツォ)、ゼフィレッリ監督「Un tè con Mussolini（ムッソリーニとお茶を)」(フィレンツェ、サン・ジミニャーノ)、マルコ・トゥリオ・ジョルダーナ監督「La meglio gioventù（輝ける青春)」(フィレンツェ、ヴァル・ドルチャ)、ディーノ・リージ監督「Il sorpasso（追い越し野郎)」(カスティリオンチェッロ、カパルビオ)、「Pinocchio（ピノキオ)」(トスカーナを舞台にしたいくつかの映画)、ベルトルッチ監督「Io ballo da sola（魅せられて)」(ブローリオ、サン・サーノ、ジェッジャーノ、シエーナ)、ピエラッチョーニ監督「Il ciclone（踊れトスカーナ！)」(スティア、ラテリーナ、アレッツォ)、フランチェスコ・ブルーニ監督「Cosa sarà (きっと大丈夫)」(リヴォルノ)、パオロ・ヴィルツィ監督「La pazza gioia（歓びのトスカーナ)」(リヴォルノ、ヴィアレッジョ、モンテキアーニ・テルメ)
- コッローディのピノキオ公園、ルッカ映画祭、フィレンツェのゼフィレッリ博物館、フィレンツェのガリレオ博物館、ナショナルシネマフェディック（イタリア映画クラブ連盟)、トスカーナメディアテーク

レッスン 7: ラツィオ州におけるイタリア映画のロケーション

- ラツィオ州がイタリア映画のロケーションとして紹介する
- ローマが舞台の映画例：「La dolce vita（甘い生活)」、「La grande bellezza（グレート・ビューティー／追憶のローマ)」、「Roman Holyday (Vacanze romane，ローマの休日)」、「Roma città aperta（無防備都市)」、「Mamma Roma（マンマ・ローマ)」、「Caro diario (親愛なる日記)」、「Un americano a Roma (ローマにのアメリカ人)」、「Stazione Termini　(テルミニ駅)」、「C'eravamo tanto amati（あんなに愛しあった

のに)」、「I soliti ignoti (いつもの見知らぬ男たち)」、「Le ragazze di Piazza di Spagna (スペイン広場の女たち)」、「Ieri, oggi, domani (昨日・今日・明日)」、「Fantozzi (ギャグ王世界一／ファントッツィ)」、「Un borghese piccolo piccolo (ちゃちなブルジョワ)」、「Indagine su un cittadino al di sopra di ogni sospetto (殺人捜査)」

- ラツィオ州が舞台の映画例:「La strada (道)」、「La ciociara (ふたりの女)」、「L'armata Brancaleone (ブランカレオーネ遠征隊)」、「Uccellacci uccellini (大きな鳥と小さな鳥」、「Pinocchio (ピノッキオ)」「Il vigile (交通整理のおまわりさん)」、「L'avaro (守銭奴)」、「Diabolik (ディアボリック)」、「Tre uomini e una gamba (三人の男と一本の足)」
- チネチッタ、チネチッタ・ワールド、Centro Sperimentale di Cinematografia、イタリア映像と映画の博物館 (Miac)、ローマ映画祭、Casa del Cinema a Villa Borghese、Istituto Luce フィルムアーカイブ、Filmoteca Vaticana (バチカンフィルムアーカイブ)、「ローマと映画」のガイドツアー

レッスン 8: カンパニア州におけるイタリア映画のロケーション

- カンパニア州をイタリア映画のロケーションとして紹介する
- この地域で生まれた有名な映画監督や俳優の名前：ソフィア・ローレン (ローマ生まれで、子供の頃にポッツオーリに移住)、トト、エドアルド・デ・フィリッポ、パオロ・ソレンティーノ、エットーレ・スコーラ、マッシモ・トロイージ、フランチェスコ・ロージ、トーニ・セルヴィッロ、シルヴィオ・オルランド。
- カンパニア州が舞台の映画例：「L'Oro di Napoli (ナポリの金)」、「Vedi Napoli e poi muori (転落の罠)」、「Le mani sulla città (都会を動かす手)」、「Gomorra (ゴモラ)」、「Matrimonio all'italiana (あゝ結婚)」、「Viaggio in Italia (イタリア旅行)」、「Napoli milionaria (ナポリの百万)」、「Ammore e malavita (愛と銃弾)」、「Pensavo fosse amore… invece era un calesse (愛だと思っていたが一人乗りの馬車だった)」、「アマルフィ 女神の報酬」、「天使と悪魔」、「スター・ウォーズ」(カセルタ宮殿)、ポンペイで撮影されたいくつかの「古代ローマ」映画。
- ジッフォーニ映画祭、イシキア映画祭とアラゴネーゼ城、ナポリ映画祭、ビコ・エクエンセの映画博物館、アチェーラの映画と芸術の家

レッスン 9：プーリア州と**バジリカータ州**のイタリア映画ロケーション

- プーリア州とバジリカータ州をイタリア映画のロケーションとして紹介する
- プーリアとその方言に関連した人物：ディエゴ・アバタントゥオーノ、ミケーレ・プラチド、リノ・バンフィ (セクシーコメディ代表者、そして他にも)、ドメニコ・モ

ドゥーノ（「ミスター・ボラーレ」）、ロドルフォ・ヴァレンティノ。

- プーリア州とバジリカータ州で撮影された映画の例：「La ragazza con la pistola（結婚大追跡）」（ポリニャーノ・ア・マーレ）、「Io non ho paura（僕は怖くない）」（サン・レオナルド、メルフィ）、「Il Vangelo secondo Matteo（奇跡の丘）」と「The passion of the Christ（パッション）」（マテーラ）、マッテオ・ガローネ監督の「ピノキオ」と「No Time to Die（007 - ノー・タイム・トゥ・ダイ）」（グラヴィーナ・ディ・プーリア）、「La vita davanti a sé（これからの人生）」（バーリ）、「Io che amo solo te（君だけを愛してる）」や「La cena di Natale（クリスマスの夕食）」（ポリニャーノ・ア・マーレ）、「Mine Vaganti（あしたのパスタはアルデンテ）」（レッチェ、ガッリポリ）、「I cavalieri che fecero l'impresa（ナイト・オブ・ゴッド）」（バルレッタ、オトラント、ガルガーノ）、「Cristo si è fermato a Eboli（エボリ）」（アリアーノ、クラーコ、グラヴィーナ）、マッテオ・ガローネ監督の「Il racconto dei racconti（五日物語　－３つの王国と３人の女－）」と「ワンダーウーマン」（カステル・デル・モンテ）
- アプリア映画委員会（Apulia Film Commission）、映画教育小博物館（Piccolo museo didattico del cinema、バーリ）、ルカーナ映画資料館（Cineteca Lucana）

レッスン 10：シチリア州のイタリア映画ロケーション

- シチリア州をイタリア映画のロケーションとして紹介する
- シチリアで撮影された映画の例：ルキノ・ヴィスコンティ監督の「La terra trema（揺れる大地）」（アーチ・トレッツァ）、ジュゼッペ・トルナトーレ監督の「Nuovo Cinema Paradiso（ニュー・シネマ・パラダイス）」（チェファル）、ジュゼッペ・トルナトーレ監督の「Malena（マレーナ）」（ノート、シラクサ、タオルミーナ）、ジュゼッペ・トルナトーレ監督の「Baarìa（シチリア！シチリア！）」（バゲリア）、ルキノ・ヴィスコンティ監督の「Il Gattopardo（山猫）」（パレルモ）、マルコ・トゥリオ・ジョルダーナ監督の「I cento passi（ペッピーノの百歩）」（チーニジ）、「Caro diario（親愛なる日記）」（エオリエ諸島）、「Palombella rossa（赤いシュート）」（アチレアーレ）、「Divorzio all'italiana（イタリア式離婚狂想曲）」（ラグーザ、イゾラ・ベッラ）、「Sedotta e abbandonata（誘惑されて棄てられて）」（アグリジェント）、「La mafia uccide solo d'estate（マフィアは夏にしか殺らない）」（パレルモ）、「In guerra per amore（愛のために戦地へ）（トラパニとパチェーコの塩田自然保護区、トルコ階段」、「Il giorno della civetta（マフィア）」（パルティニーコ）、「Il giudice ragazzino（若き裁判官）」（アグリジェント、カニカッティ、ファヴァーラ）、「Mery per sempre（永遠のマリー）」（パレルモ）、「Il commissario Montalbano（モンタルバーノ　～シチリアの人情刑事～）」（シクリ）、「Respiro（グラツィアの島）」（ランペドゥーザ島）、「Forse è solo mal di mare（ただの船酔いかもしれない）」（リノーザ）

- タオルミーナ映画祭、シチリア映画委員会-映画の道-映画の旅、シラクサ映画博物館、カターニア映画博物館